

北海道北見北斗高等学校（管理機関：北海道教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校全体でSSHに取り組む体制が確立されており、今後の取組の深化と成果を期待する。
- 「SSH 研究サポートチーム」活動は特色があり、今後も有効に機能することを期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究の指導に当たって、全教員がコーディネーターとして担当班を持ったり、卒業生をTA（Teaching Assistant）やメンターとして採用したりすることにより、指導を充実させていることは、評価できる。
- 生徒発表会等で相互交流を図っている学校を含めて、多くの教員が先進校の視察を行って指導方法の改善等に努めていることは、評価できる。
- 「科学研究作法学」等の教育課程上の工夫は評価できる。今後はこうした取組を普通科にも波及させていくことを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「SSH アクションチーム」の活動成果は評価できる。本チームの成果を定着させるため、科学クラブの強化や探究活動拠点としての図書館の機能、活用強化等を期待する。
- 北見工業大学との「高大連携協定」は有効に機能しており、今後「高大接続」に向けた検討を進めることを期待する。
- 外部機関との連携について、本校が主体となるように改善が必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 先行課題研究のアーカイブデータの利活用が検討されているが、利便性の高いデータベースを構築することを期待する。
- 課題研究に関わるワークシートの公開等の成果が出ている。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 外部連携を加速するために、支援員の配置等の検討を期待する。
- 教員配置について、SSH の実施に必要な教員が配置されているのか検証し、適切な対応をすることが必要である。

市立札幌開成中等教育学校（管理機関：札幌市教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 意識調査及びリテラシー・コンピテンシーの測定で、研究開発計画の進捗状況を客観的に分析し、改善点を見出し、次の研究計画の改善に生かしていることは、評価できる。
- SSH と国際バカロレア（IB）を同時に動かせるように、校内の組織体制が構築されていることは、評価できる。
- 当校にとっての「STEAM 教育」の意図を学校全体で共通理解を図り、サイエンスリーダーの育成につなげることを期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 毎週 1 回 SSH の会議を開催する等、全教員が一丸となって、指導力向上を図っていることは、評価できる。
- 第 1 学年から第 6 学年までの全生徒が、6 年間を通して 8 回の課題研究を実施し、個人研究からグループ研究へと広げていることは、生徒の探究力を高めることにつながっており、評価できる。
- IB に基づいて、探究的な授業を各教科で実施していることは、評価できる。
- 様々な取組が行われることにより、全体的なビジョンが見えにくいため、整理等が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 毎年、国際大会等に出場し、優れた成績を収めた生徒を輩出していることは評価できる。今後は、部活動の取組と授業での探究活動との連動を期待する。
- 外部連携は多岐にわたった取組が実施されているが、これを生徒の探究活動の深化につなげる学校全体の取組が必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 開発した研修プログラムが、札幌旭丘高校での SSH においても活用されていることは、評価できる。
- 中等教育学校であるので、市内の義務教育段階の学校への成果普及をより積極的に行うことを期待する。
- 保護者に対して、HP の内容を掲載したプリントを配布する等、配慮の行き届いた対応がされており、今後の SSH 活動においても協力を得られると考える。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校に関する指導助言だけでなく、教員研修、地域連携、ICT 活用に関する対応等の支援が行われていることは、評価できる。

岩手県立釜石高等学校（管理機関：岩手県教育委員会）
【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 卒業生メンターの活用について、実効性を有するように一層の推進を期待する。
- Ⅲ期にもかかわらず、SSH の取組に意義を感じていない教員がおり、全校体制の取組になっていない点は改善が必要である。
- Ⅲ期でありながら、運営指導委員会の「どういった人材を目指したいのかがわかっていない」との指摘について、改善に向けて対応することが必要である。
- 成果の分析について、STEAM の項目があるが、STEAM をどのように捉えアンケートに回答しているのかということが不明確であるため、改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教科横断的な探究活動が、担任する授業での部分的な取組にとどまらず、全教科で組織的に推進するための工夫を期待する。
- OPPIA (One Page Portfolio Assessment) による生徒との対話によって読み取る質的な評価と、アンケート等の量的な生徒の変容評価とを関連付けた評価開発を期待する。
- 釜石市教育魅力化コーディネーターによって、SSH の取組を更に充実することを期待する。
- 教育課程の特例が、SSH の研究課題の解決にどのように生きているのかが分析されていない点について改善が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 外国語での活動やイギリスの United World College との共同研究の成果を基に、共同研究を推進するための手法等を取りまとめ、公開することを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 職員内だけでなく、生徒間でもこれまでの成果をより一層活発に共有する仕組みについて工夫することを期待する。
- 授業実践掲示板で探究授業を紹介することによる、授業改善の共有や探究授業の普及に関して効果検証することを期待する。
- 防災教育に国際的な貢献が期待できる立ち位置にあると考えられるため、今後の取組を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 県の HP に釜石高校のリンクが掲載されているが、域内だけでなく域外の学校に対しても成果が普及されるよう、活用しやすい形で取組を紹介することを期待する。

宮城県仙台第一高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 運営グループを複数設けることにより、全教員がSSH事業を理解し、実施できるよう工夫したことは、評価できる。
- 全教員が現行の学習指導要領の考え方を理解して研究開発計画を推進していることは、評価できる。
- 理系選択者の割合が高くなっている点は評価できるが、それが必ずしも進学先につながっていない点については、分析を続けることが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学校設定科目「学術研究」に加え、通常の授業においても探究的な活動が多く取り組まれていることは、評価できる。
- 仙台一校TA（Teaching Assistant）バンクや卒業生を活用した指導を積極的に取り入れていることは、評価できる。
- 生徒が自由に考える要素が多い教育内容が実践されており、それを教職員がよく理解して進めており、将来の独創的な科学技術人材の育成につながることを期待する。
- 生徒が主体的に課題研究に取り組めるよう1、2年生合同のゼミを設け、ゼミ形式の課題研究が行われていることは興味深い。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 国際性を育成する取組について、予算の執行を工夫する等した海外研修や、台湾の精華大学との連携等を積極的に実施していることは評価できる。
- 大学と連携してTAや特別講座等が積極的に行われていることは評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 生徒が作成する広報誌を公開し、学校公開の機会を年4回設けている等の取組は評価できる。
- 校内で成果の共有と活用が十分にできているため、今後は実践手法と成果の校外へのさらなる普及を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 先進的な探究活動の実践例の発表会を実施していることは、評価できる。

宮城県仙台第三高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）

【Ⅲ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 研究進捗状況を丁寧に確認していること、「理数科部」と学内の全教員が所属する組織である「SSH-授業づくり研究センター」の両輪で全校体制で事業を推進していることは、評価できる。
- 生徒、教員及び学校の変容評価に関する研究が深化していること、教員の探究活動の指導が授業改善につながっていることは評価できる。
- 教員と生徒により形成的アセスメントに取り組んでいることは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 「三高型 STEAM 教育」として 18 の教科融合科目を順次開発・実践し、課題研究以外の教科・科目の授業内において PBL (Problem Based Learning) 授業を展開して科学的な探究活動につなげており、生徒の探究活動の充実や外部発表等の意欲が向上していることは、評価できる。
- 教師の指導力向上のための取組として、SSH 授業づくりセンターの設置や、校内研修の充実を図っていることは、評価できる。
- 先進校視察の報告書内で「当校で活かせること」を全職員で共有する取組は、授業改善につながることから、評価できる。
- 教育課程の特例を活用して学校設定科目を設定しているが、その成果が明確となっておらず、改善が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 外部機関との連携が、SSH 事業の推進に有効に機能して成果につながっていることは、評価できる。

- 近隣小・中学校への生徒のアウトリーチ活動や修学旅行を活用した学校間交流、高校生による海洋問題シンポジウム等の取組において成果を出していることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 「イノベーションフェスタ」の開催や、開発した教材等の HP での公開、「三高メソッド」の作成・発信等の取組は評価できる。
- 研究成果の校内データベース化やその活用その他、開発教材が他校においても活用できる形で多く公開され、成果の普及に努めていることは評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 教員養成をしっかりと行うことは持続的な教育向上のために重要であり、教員養成講座を通して事例の発信に努めていることは、評価できる。
- 国内外の学校との合同研究発表会や共同研究等の要望の増加等も想定されることから、一層の支援を期待する。

山形県立東桜学館中学校・高等学校（管理機関：山形県教育委員会）

【Ⅱ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 生徒や教職員を対象としたアセスメントについて、次の改善が必要である。
 - ・生徒や教職員を対象にアセスメントを実施しているが、回答率が低いことや、アセスメント結果を生徒やSSH事業にどのように反映させるのかが不明確であるため、アセスメントの活用方法等の検討。
 - ・運営指導委員会の「科目の評価とSSH全体としての評価との関連を図り、評価の体系化（可視化）が必要」との指摘への対応。
 - ・「授業力」自己診断シート項目に課題研究との連携項目がないこと等の改善。
 - ・教師と生徒の乖離が見られた内容について、具体的な改善策の検討。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「SS 自然科学基礎Ⅰ」等の融合科目の設定や、文系における「SS 自然科学基礎Ⅱ」等を設定し、全生徒に対して実践していることは、評価できる。
- 「未来創造プロジェクト」に関わる「SS 総合探究」は全教職員が担当者として、全校体制で実施していることは、評価できる。
- リサーチクエスト講座の「課題実践コース」を選択する生徒が多くないため、「課題実践コース」と「課題研究テーマ設定コース」とのコース選択やコースの設定について改善を図り、科学技術人材育成の促進の可能性について実証されることを期待する。
- 融合科目、探究活動、英語等の個々の取組が充実しているが、各科目活動がつながるように改善する必要がある。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 国際英語プレゼンテーション大会を主催する等、国際的な研究発表の場を提供

していることは、評価できる。

- 山形大学や山形県立保健医療大学、地域企業、東根市役所等と外部連携していることは、評価できる。その際、生徒に求める資質・能力が身に付いたかについて評価することを期待する。
- 現在計画しているタイとの共同研究の実現を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究発表会を通して、他校生徒との交流を図るだけでなく、他校教師との交流会を開催しようとしていることは、評価できる。
- 外部施設でのポスター展示や発表会、東桜サイエンスラボ等、近隣の小学校や中学校との交流をしていることは評価でき、今後更に発展させることを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 山形県 SSH 指定校 4 校の連絡協議会の設定は評価できる。今後は、山形県だけでなく、近隣の県等との連携を推進する取組を期待する。
- 県の HP において、SSH 各指定校へのリンクはあるが、学校間の横連携を目的として、活用しやすい形での情報公開を期待する。

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果の分析について生徒のアンケート結果から主体性や自己効力感等が向上していることは、評価できる。また、教職員の90%以上がSSHに参画しているという意識も評価できる。
- 成果の分析について、自己効力に関する評価と各科目の目標に合わせた評価の整合性が取れていないため、全体としてどのように評価していくのか改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 過去の研究データを学習させた生成AIを開発中という点は評価できるが、生徒・教員が研究倫理を含めて理解した上でそのAIをどのように活用するのかについて整理することを期待する。
- 学校設定科目「異分野融合サイエンス」や「データサイエンス」等が、従来の教科と比べてどのような特性があり課題があるかについて成果をまとめることを期待する。
- 3年生のサイエンス徒弟性は興味深い試みなのでその評価を期待する。
- 通常の教科・科目を課題研究につなげるための工夫が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 山形大学との高大連携協定を締結し、大学で履修した授業が高校の単位になること、大学院生がTA（Teaching Assistant）として関わり研究の深化に寄与していることは、評価できる。
- コアスーパーサイエンスクラブやイノベーター育成塾等、生徒の活動の機会を多く設けていることは、評価できる。今後も、一部の積極的な生徒だけでなく、

より多くの生徒が参加できるようにすることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 外部への情報発信や地域の子ども向けの取組を積極的に実施していることは、評価できる。
- IV期であることから、他校で実際に成果物を使用してもらえるよう取り組むことを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 山形県 SSH 指定校 4 校の連絡協議会の設定は評価できる。今後は、山形県だけでなく、近隣の県等との連携を推進する取組を期待する。
- 地方創生の立場から山形県の産業界を支える人材育成についての試みを更に推進することを期待する。

福島県立福島高等学校（管理機関：福島県教育委員会）

【Ⅳ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 校内分掌について「SSH 部」と「SSH 企画推進部委員会」を分けて SSH 事業を推進していることは、評価できる。
- 資質・能力ループリックと探究プロセスループリックとの関係を明確にすることが必要である。
- 生徒の自己評価だけで事業評価をするのではなく、教員からの評価がどのように行われているかについて明確にすることが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 探究的な学びと通常の教科科目の授業との往還を「福高メソッド」として実施していることは、評価できる。
- 特色ある教材が開発されており、特に、授業動画サイトの活用は、評価できる。
- これまでのループリックを見直し、「資質・能力ループリック」や「探究プロセスループリック」を作成し活用する等、指導と評価の一体化に取り組んでいることは、評価できる。
- SS カンバンにおけるスプレッドシートについては良い取組であるため、今後は、このシートをどのように活用できているのか、具体的な事例を整理することを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域や他の SSH 指定校等との連携が充実していることは、評価できる。
- 教育課程外の活動について、スーパーサイエンス部の部員が 94 名と充実しており、コンテストで実績をあげていることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学校内における研究成果の共有・継承は各事業に2名以上の担当者を配置する工夫をして着実に実施していることは、評価できる。
- HPに公開されている資料は充実しているが、ウメタンシート（ワークシート）の具体的な活用例を公表することを期待する。特に、ウメタンシートⅡの軸の設定についてどのような指導が必要なのかを、科目を例にとって紹介する資料があるとよい。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校と連携しつつ、管理機関として積極的に支援を行っていることは、評価できる。
- 「教育委員会公式noteサイト」を設置し、SSH指定校に関する取組をはじめ情報発信を行っていることは、評価できる。

茨城県立並木中等教育学校（管理機関：茨城県教育委員会）

【Ⅲ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 全体を通して生徒が自分の問いを見つけること、なぜかと問いかける等の自主的な活動が定着していることは、評価できる。
- 学校として身に付けさせたい資質・能力となる「対話力」、「失敗から学ぶ試行錯誤力」をどのように見取るのかについて、整理することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 理数探究基礎、理数探究を軸とした全校体制で取り組んでいることは、評価できる。
- 個人研究を研究主体とする手法は、評価できる。
- 教員が互いに授業を参観する取組を毎月 1 週間行っていることは、評価できる。
- 地域の利点を生かして、保護者や OB・OG を有効に教育サポートの施策に取り入れていることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地元つくば市内の研究施設との連携は本校ならではの地の利を生かしたもので内容も充実しており、評価できる。
- 県内の SSH 指定校の連携の他、大阪、横浜の学校と特色ある連携の推進や、国際共同研究に発展していることは、評価できる。
- 科学コンクールや研究発表会に参加して、多くの受賞を受けるなど、科学研究部の活動や学校全体の課題研究に対する取組が充実していることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 他校からの視察件数が多いことは、評価できる。
- 近隣の学校との研修会を実施していることは、評価できる。引き続き研修内容を改善しながら、成果を活用することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 個人研究の指導方法について、積極的に普及することを期待する。
- SSH の成果を発信するだけでなく、他校においても本校の成果を活用できるようフォローアップが必要である。

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Ⅲ期までの成果の上に、統計学を利用した科学的思考力の強化と教科学習や探究活動・ディスカッション機会を多く設ける研究開発が進められており、生徒や教師の変容からも成果が確認でき、評価できる。
- 低学年からの探究活動によって、総合選抜による進学実績が増えている等、成果が表れていることは、評価できる。
- 今後は、自走化に向けた検討の深化を期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「サイエンス科」、「普通科」とも第１学年の教育課程の内容に特徴があり、第２学年以降の活動の礎として機能しており、今後これらの成果を公開することを期待する。
- Ⅳ期目であることから、普通科３年の生徒においても課題研究が行われるよう改善が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 外部連携や地域アウトリーチ活動も積極的に展開されており、本校の取組に貢献していることは、評価できる。
- 茨城大学工学部等との高大接続の深化の検討は今年度始まったばかりとあるが、実現に向けての一層の進展を期待する。
- 企業や地域との連携は順調に行われており、自走化に向けて期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員は自由に校内サーバーから様式を統一した指導案を取り出し自由に見学することができるようにしていることは、評価できる。
- 開発教材や指導案、ルーブリック評価表が学校 HP で公開されているが、他校でも活用できる形で公開されることを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 令和 6 年度から茨城県独自に実施するラーケーションを活用することにより、SSH の成果とどのような繋がりがあるのか分析することを期待する。

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 校長を中心として、全教員がSSHの指導を行う組織的な体制が確立され、探究PLカードを利用した評価、及び英語4技能テストGTECのスコアにより、研究開発の検証を行い、計画の進捗状況を確認していることは、評価できる。
- 「SEL (Social Emotional Learning)」を取り入れ、生徒の議論に対する心理的障壁を下げようとしていることは、評価できる。一方で、論理的な議論においては、心理的安全性を重視するだけでなく、論理が間違っている場合はそれを指摘し、修正案を出すことの重要性を生徒に理解させる必要もある。
- Ⅳ期目の残りの期間の研究開発を実施するに当たり、これまでの成果と課題を踏まえて、次の段階にどのように向かおうとしているのかについて、より明確にすることを期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 中学校・高等学校を通じた科学的探究能力の段階的育成プログラムを実施しており、中学校段階において、データ分析の習得を目的とした「ミニ探究」を行うことは、評価できる。
- 「探究PLカードを使用した評価」や「ループリックを使用した評価」等、複数の評価結果を基に、生徒の資質・能力の向上に繋がっているかについて多面的に検証していることは、評価できる。
- 理科の実験時間を十分に確保する工夫をしていることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 5か国の高等学校と国際共同研究に取り組んでいることは、評価できる。
- 多方面にわたる外部連携も見られるが、それが生徒の探究活動に十分に活かさ

れているのか不明であるため、各取組の成果を明確にすることが必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 近隣の小学生を対象とした「清真サイエンスアドベンチャー」を実施していることや、国立研究開発法人情報通信研究機構の協力の下、本校生徒と共に小・中学校や地元図書館等の公共の場において科学のおもしろさを伝える取組を実施していることは、生徒の自主性を高めることや学びの意味を振り返る点でも評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校として、全教職員の育成したい生徒のビジョンを明確にすることが必要である。

群馬県立桐生高等学校（管理機関：群馬県教育委員会）

【Ⅳ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Ⅲ期目から、対象生徒を全生徒にし、事業推進のための組織を「理数科部」から「資質・能力育成部」に広げてⅣ期目も同様に実施する等、教員間の意思疎通を意識して推進していることは、評価できる。
- 令和３年度の桐生女子高校との統合に伴う教員の異動より、探究活動の指導力が課題となっているが、運営指導委員を講師として研修を実施する等、その課題に対して対応していることは、評価できる。
- Ⅳ期目の指定校として、卒業生をTA（Teaching Assistant）として探究活動に参加を促す等、卒業生のSSH事業への一層の活用を期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 育成したい資質・能力を明確化して探究活動を指導し、理数科以外での教科科目においても課題解決に向けての資質・能力を高める授業改善をしていることは、評価できる。
- オリジナルテキストの「学びの技法（基礎編）」を活用し、生徒・教員の共通理解に貢献していることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域機関や大学との連携による探究活動の深化に積極的に取り組んでいるとともに、他の高等学校との協力体制も構築することにより、地域のSSH事業を牽引していることは、評価できる。
- 地域貢献力育成を図る「桐生学」は桐生市役所と連携したユニークな取組で、市役所所員による講義やフィールドワークを実施し、地域や群馬大学と連携して地域課題・環境問題の解決に向けた地域ネットワーク構築が進められている

ことは、評価できる。

- 部活動は発表会やコンテストへの参加、イベントへの参加等活発に活動しているようであるが、今後、県外・国外におけるイベント参加を目指すような部員の増員を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- オリジナルテキストの「学びの技法（基礎編）」、「学びの技法（実践編）」を県内の学校に紹介し、成果の普及に努めていることは、評価できる。
- 他校校長・教員を招聘しての「桐生高校探究シンポジウム」の開催や、開発教材の配布、視察校やメディアの受入等、群馬県への成果普及活動を積極的に行っていることは、評価できる。今後はⅣ期の指定校とし、全国的な活動を実施することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校の情報交換会の開催や、理科教員の加配措置等、人的・物的支援を行っていることは、評価できる。
- 群馬県内に留まらない成果の発信を、管理機関として学校の支援をすることが必要である。

1 中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- IV期にも関わらず、SSH クラスのみを1クラスとした活動となっており、改善が必要である。
- IV期にも関わらず、卒業生の活躍状況が十分に把握されていない点は改善が必要である。
- 育成を目指す資質・能力を明確ではないため、改めて検討することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 課題研究の成果を生かして課題研究以外の通常の教科・科目における主体的な学びを実現する取組をしっかりと進めることが必要である。
- 教育課程上3学年に課題研究の教科科目が設置されていないため改善が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学や研究機関との連携や関東の7つの女子高等学校の交流等を活発に行っていることは、評価できる。今後、共同研究を実施する等のさらなる発展を期待する。
- 外部連携については、第1・2学年時のSSHクラスの1クラスが主になっているため、全校生徒を対象にすることが必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 他校からの視察が少ないと考えられるため、女子高等学校の SSH 指定校の特徴をうまく広報して交流を広げることが必要である。
- IV期の指定校として、他への学校の発信を具体的に検討し、他校において活用されるようにすることが必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 他校において、本校の SSH の成果の活用を期待する。

さいたま市立大宮北高等学校（管理機関：さいたま市教育委員会）
【Ⅱ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教職員から保護者にと組を説明した上で、2 学年全員で「STEAMS Time Ⅱ」に取り組んでいるが、その取組が「STEAMS」の意図に沿っているか検証が必要である。
- 「理数系意識調査」を実施しているが、取組成果の分析が必要である。
- 成果の分析が生徒の意識調査だけに終わってしまっている点は改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学等の監修のもと、評価の在り方を開発することが必要である。
- 課題研究など探究活動にあたって、教師の指導力の向上は不可欠であるが、教科・科目等の専門性を高める研修や時間が確保されているのかは不明である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 市立高等学校の特性を活かした、小・中・高・大・企業の連携は、評価できる。
- 国際交流の取組については、その成果が多くの生徒に還元されるようなシステムづくりを期待する。
- 様々な機関との連携の展開は見られ、内容も多岐にわたっているが、生徒の探究活動に活かされているかどうかの検討が必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 近辺の義務教育の学校に対して、市立高等学校の特色を活かして成果の普及を

図ることを期待する。

- 成果物を他校で活用してもらえるような取組を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 教員の配置、実験設備の支援等の取組は、評価できる。
- 教育委員会として、高校教育への認識の甘さ、学校現場への指導力の弱さを感じる。管理機関として、市立高等学校の強みを活かし、小・中・高の一貫性も意図した支援が必要である。

川口市立高等学校（管理機関：川口市教育委員会）
【Ⅰ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SS 理数探究Ⅲと他の履修すべき科目の授業時間が重複しており履修できなかったことについて既に改善したことは評価できるが、他の教科・科目等で同様のことがないか、改めて確認することが必要である。
- 運営指導委員会から指摘された「普通科の課題研究での研究テーマが漠然としすぎている」等のように、理数科の取組の普通科への普及について一層の工夫が必要である。
- 成果と課題の検証について、主に「運営指導委員による指導助言」によっており、自校の教職員で主体的・能動的に、成果と課題を検証し、自校の課題に対する対応策を検討することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 研究開発課題名にも入っている STEAM 教育とのつながりが不明瞭であり、個々の取組のつながりが見えないため、教科科目間の連携に向けた改善が必要である。
- 課題研究の高度化等のためには通常の授業の改善が求められることから、共通シラバスの作成等の指導方法の確立が必要である。
- 課題研究の３年生の選択者が限定的であるため、第３学年の必修化の検討が必要である。
- 運営指導委員会から「教員間の意識共有を進めてほしい」と指摘されているように、学校全体での STEAM 教育理解と体制づくりが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学や研究機関との連携や、外部の大学等のプログラムへ積極的に参加していることは、評価できる。
- CIR (Coordinator for International Relations) 支援による国際交流が始まったとのことで、今後国際共同研究を視野に計画が進められることを期待する。
- 高大接続の改善に資する研究について、具体的な取組がされていないため、今後取組を進めることが必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学会において、本校の取組を発表していることは、評価できる。
- HP のアクセス数は 40 万件と多く、広く情報発信できていることは評価できるが、アクセス元や、なぜアクセス数が多いのか等、アクセス解析することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校に CIR のネイティブ教員を 10 名配置していることは、評価できる。
- 市内小・中学校に向けた情報発信や研修を行っていることは、評価できる。学校関係だけでなく、地元や市民に向けた情報発信に向けた取組を期待する。
- 市の HP においても、SSH 事業の成果の情報提供を期待する。

千葉県立木更津高等学校（管理機関：千葉県教育委員会）

【Ⅱ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 教員の意識の変化が極めて大きいことは、評価できる。
- 生徒に身に付けたい資質・能力が明確であることは、評価できる。
- 生徒のルーブリックによる自己評価と教員の一般教科・科目の観点別評価との相関を分析することで、探究コンピテンシーの有効性を検証することを期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- PDCA サイクルが機能しており、課題研究が定着していることは、評価できる。
- 「指導ガイドブック」の作成により、理数科、普通科を含めて指導体制の共有化を進め、全校体制に結びつけていることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 外部の専門機関と連携して高度な研究を推進していることは、評価できる。
- 大学や研究機関、企業との連携講座の内容がよく検討されており、１年時の生徒の動機付けに寄与していることは、評価できる。
- 地学部をはじめ、科学系部活動が積極的に行われていることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 事業に関する HP のアクセス数は十分であり、小・中学校や近隣の啓蒙事業に生徒、教員が積極的に参加していることは、評価できる。
- 成果の「指導ガイドブック」は校内での継承に貢献している。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 他校での理数探究開設につなげていくことを期待する。

千葉市立千葉高等学校（管理機関：千葉市教育委員会）

【Ⅳ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- コモンルブリックの弱点をAIで補うという発想は、評価できる。
- 分野融合型授業の取組が課題研究に生かしているのかについて、その成果を明確にする必要がある。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- フィールドワークが重視されていることは、評価できる。
- 分野融合型授業の開発が進められているが、実施については各教員の判断とされているため、組織的な形で実施することが期待される。
- Ⅳ期では３年間の課題研究等の探究活動を実施することを求めているため、普通科３年の文系生徒についても課題研究等を実施することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 千葉大学工学部との連携協定を一層進め、高大接続の取組になることを期待する。
- 重点枠（海外連携）として、WSCの規模が小さい点を改善することを期待する。
- 重点枠（海外連携）で実施しているWSC（World Scientists Challenge）が、基礎枠へどのような効果があったのかについて検証することが必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- CCSS Fair（Chiba Cross School Science Fair）において、小・中学生も対象としていることは、評価できる。

- 分野融合型授業のデータベースが公開されているが、利用者がより活用しやすい形で公開することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 管理機関による組織的な支援が行われていることは評価でき、今後一層の普及・発信活動を期待する。
- 自走化への可能性や課題について、管理機関としての支援を期待する。

東京都立小石川中等教育学校（管理機関：東京都教育委員会）

【Ⅳ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- アンケートやループリック、リフレクションシート等を用いた多面的な評価を行い、定量的・定性的に分析することで、その結果をSSH事業にフィードバックして改善を行っていることは、評価できる。
- 保護者、教員、卒業生に対しても調査を行っていることは、評価できる。一方で、生徒の自己評価だけでなく、他者評価ができるような評価指標の開発が必要である。
- 資質・能力を生徒の自己評価で見取っている点は改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 6年間を通した課題研究である「小石川フィロソフィー」を設定し、文理の垣根を超えた課題研究に取り組んでいることは、評価できる。
- 5年生まで文理を分けずに理科を学ぶ教育課程と、課題研究とを連動させていることに工夫が見られることは、評価できる。
- ICT活用に向け、生徒のスキルアップに向けた取組を検討することを期待する。
- 小石川フィロソフィーの共通ループリックについては、内容を更に検討することを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 地域の小学生向けの理科教室の実施やイベントに出展し、地域と連携していることは、評価できる。
- 全校の4割弱の生徒が理数系部活動に参加しており、それぞれの科学部が地域へのアウトリーチ活動等を行っている。また、毎年100名以上の生徒がコンテ

スト等での発表等を行い、海外とのオンラインによる交流等も実施していることは、評価できる。

- 卒業生の有効活用を図る「小石川メンターバンク」の活用を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 小石川サイエンスチャンネル等、広報への取組は、評価できる。
- 生徒の論文や先生のノウハウをデータ化し、共有できるようにしていることは、評価できる。今後、このようなデータをより効果的に活用する方法について、具体的に検討することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 情報交換会等、SSH 指定校の取組の成果を普及・拡大する機会を設けていることは、評価できる。
- 中高一貫校に対するサポートや、グローバル人材育成に関わる取組の支援等を行うことは、評価できる。
- 都立学校だけでなく、区立や私立、近隣の県等との連携を推進する取組について検討することを期待する。

東京都立多摩科学技術高等学校（管理機関：東京都教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 探究活動の記録として日報を作成し、それをデータベース化して生徒自身で振り返りができるようにしていることは、評価できる。このデータベースを生徒だけでなく、教員による生徒の評価等にも使えるようにする等、データベースの活用方法の検討を期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 多くの教科・科目で、探究活動と連携した教育活動になるよう工夫していることは、評価できる。
- 課題研究の実践により育成された資質・能力が、課題研究以外の通常の教科科目の学びにどのように関連しているか等を評価することを期待する。
- 生徒と教員の変容を測ることについて、客観的な指標をもとに分析できるよう更に検討することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 東京農工大学と連携し、TA（Teaching Assistant）による指導等が行われており、大学と連携した教育が行われていることは、評価できる。
- ニュージーランドやタイの高校生等との共同研究が進んでいることは、評価できる。その成果と課題を記録して、他校に参考になるよう公表することを期待する。
- シミュレーションソフトウェア COMSOL 等の活用により、大学や企業と連携した教育を行うことは評価できるが、他の分野に関しても連携を進めることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 小・中学生に対する体験活動や研修受け入れ等、外部との交流を通して情報発信していることは、評価できる。
- 開発した教材や研究成果について、他校において活用できる形で発信し、普及させる具体的な取組を検討することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理数教育推進ネットワーク等を通して都立学校が交流できる場の設定や、外部人材活用に対する費用の支援をしていることは、評価できる。都立学校だけでなく、区立や私立、近隣の県等との連携を推進する取組を検討することを期待する。
- 本校の成果を実際に活用する学校を出てくるよう、管理機関として支援することが必要である。

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 研究開発計画の進捗と管理体制、成果と課題の分析は的確に行われていることは、評価できる。その課題の分析を元に計画した今後の取組を期待する。
- 現実事象を教材に取り入れ、統計等の考え方をを用いて課題解決する機会を生徒に提供していることは、評価できる。
- 「理数探究」で探究することの楽しさを見出した生徒が日本学生科学賞や JSEC (Japan Science & Engineering Challenge) 等へ応募していることは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究で統計的な処理ができるように、情報科と数学科が連携して、授業計画の工夫や解析ソフトの使い方を授業していることは、評価できる。
- SSH に関する取組を全教員により組織的に行う仕組みを考えているが、今後はそれを機能させていく取組が必要である。特に、教員の指導力向上のための校内研修の実施や教育委員会主催の研修への参加、他校視察の実施等を期待する。
- 理数探究基礎について、教員が有用感を感じることがなければ、生徒の満足度は上がらないので、探究の指導を教員が有用感を持って指導できる体制になるよう、工夫することが必要である。
- 課題研究に関する科目について、2 学年、3 学年の履修者が少ないことは課題であるため、改善が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 外部連携による国内派遣研修プログラムを実施していることは、評価できる。

- 産学連携プログラムを3年生の希望者に実施して、科学的見方・考え方を身に付けさせる機会としていることは、評価できる。
- 海外派遣や海外大学生・高校生との交流、英語による科学講座を実施して、生徒の国際性を高める取組は、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 1年生の「理数探究基礎」ガイダンスに上級生や卒業生の研究成果を発表する機会を設け、成果の継承を工夫していることは、評価できる。
- 「理数探究基礎」の「教員の手引き」等、SSHとしての成果の発信・普及に関しては、改善が必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- GE-NET20 (Global Education Network 20) や海外学校間交流推進校への指定、「理数教育推進ネットワーク」でのSSH事業の取組の共有や「Tokyoサイエンスフェア」での研究発表等、日比谷高校に東京都の理数教育を牽引する役割を担うよう指導・助言していることは、評価できる。
- 外部人材の活用に要する費用や、学会やコンテストへの参加経費を支援していることは、評価できる。
- SSHへの取組意義・意味を全教員が理解して組織的に取り組めていないので、全教員が積極的にSSHに取り組むことができるよう、管理機関として支援することが必要である。

神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校（管理機関：神奈川県教育委員会）

【I期3年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「緑高生ポータル」、「探究で使える便利サイト集」、「探究ノート」や各種のルーブリックの開発等研究開発が進展していることは、評価できる。
- 教員有志による「SSH研究推進部会」と生徒による「SSH研究推進委員会」を組織して、具体的な方策を検討していることは、評価できる。
- 全教科で探究的授業を展開する授業改善の取組が拡大しており、今後の成果を期待する。
- 図書館とコンピュータ室を連携した「知の情報拠点」の構築として、今後は司書の専門性を活かす取組についての成果を期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 授業改善や課題研究の支援として図書室や理科室の活用利便性を高める取組には特徴があり、先進事例としての成果を期待する。
- 教育課程として「資質・能力ベースの教科横断」を確立しようとしており、普通校でも使えるような教科ごとの資質・能力の明確化と連携の一覧表等の作成と実施効果の検証を期待する。
- 教職員の指導力向上が望まれるとともに、探究的な授業の在り方について教職員間で共通理解を図る必要がある。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学や企業との連携について、連携先と、支援を求める探究活動との間に不整合が起こらないよう、管理機関を含めた組織的な取組のシステム開発と公開を期待する。
- 大学や地本企業との連携による理数系教育の強化が計画進行であり、今後の深

化を期待する。

- 県外の SSH 指定校との交流機会となるスタディーツアーは成果が認められるので、今後の取組拡大を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 広報紙「緑高 SSH」の発行・配布活用は SSH 事業の理解に有効であり、評価できる。「スタディーツアー」に参加した生徒の体験的学びの結果を全校生徒が共有できるような報告書の開示方法や、各種コンテストの募集案内情報の提示方法の工夫等は今後の成果を期待する。
- 開発教材の「探究で使える便利サイト作成」が学内だけの利用に留まらず、学外でも広く利用され、探究活動の支援に活かされることを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関として、ハード面とソフト面の両面からの支援を行っていることは、評価できる。
- 横浜市立サイエンスフロンティア高等学校との情報交換会においては生徒間交流を含めた検討を期待する。
- 生徒研究発表会「かながわ探究フォーラム」が、神奈川県だけでなく、東京都教育委員会、長野県教育委員会、横浜市教育委員会及び私立高等学校とも連携し、県内外の SSH 指定校間で研究成果を共有し合えるような仕組みまで広がったことの成果を整理し、組織的な取組として、今後の量的質的拡大を期待する。

山梨県立韮崎高等学校（管理機関：山梨県教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 申請時の開発計画では全校生徒対象であったが、文理科生徒と普通科希望者に対象が変更されており、学校全体で推し進めている SSH 事業とは言えないため、改善が必要である。
- SSH 事業が校長のマネジメントに基づき全校体制で推し進められていると自己評価しているが、教職員意識調査では全校で取り組んでいるという回答が約半数であり、改善が必要である。
- 成果の分析について、生徒の主観のみで行われているため、資質・能力の育成がされているかについて、客観的に評価できるよう改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 自己評価の項目「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図られているかどうか」について、評価結果が示されず改善が必要である。
- SS 英語・数学・理科、教科書の範囲を超えた実験も扱う SS 物理・化学・生物等で教育課程が編成されているが、生徒の主体的・対話的で深い学びの授業となっているか検証が必要である。
- ルーブリック評価を用いているとのことだが、その妥当性について、有識者も交えて検討することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地元と連携した研究を深化させたり、研修を実施していることは、評価できる。
- 大学教員によるスカラーⅠ・Ⅱ、アドバンス講座、大学・企業と連携した科学研修を施していることは、評価できる。ただし、SSH 対象生徒に限られているた

め、普通科の生徒もスカラーIを受講できるようにすることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 教育員会と共同して、SSH の取組状況を普及していることは評価できる。今後は HP を更に活用して、成果の普及に関する取組を積極的に行うことを期待する。
- 自校で開発した教材やノウハウが、他校において活用されているかについて把握することが必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 非常勤講師の配当や SSH 主担当者への配慮等 SSH 指定校への人的支援は、評価できる。
- 山梨県の HP に SSH の取組状況を掲載し、県内の中高生のみならず、県民の方々に SSH の活動を広く周知していることは、評価できる。今後も学校と連携して、常に新しい内容が掲載できることを期待する。

山梨県立日川高等学校（管理機関：山梨県教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 数学と理科の重点教育や課題研究を支援する教育課程の編成等に特色があり、研究開発が全校体制で進められていることは、評価できる。
- 研究開発課題の達成状況をループリックやアンケート等で評価して PDCA サイクルで運営する仕組みは、評価できる。今後は、どのような要因が生徒の変容を生じさせたのか分析することを期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 異学年混合の研究グループ編成や SS を付けた教科・科目のコンテツ編成には工夫が見られ、理科系教科・科目では、科目別に特色ある評価システムが採用されていることは評価でき、今後の発展・深化を期待する。
- デジタルポートフォリオを用いて PDCA サイクルを展開することは評価できるが、その分析と活用について明確にすることを期待する。
- 教員は主に教科の立場からのアドバイス、専門家は世の中の研究開発の立場からのアドバイスを行っているが、両方の視点が探究活動に効果的か否かを研究することを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域の特色である農業分野について、外部機関と連携して研究を進める体制が整っており、生徒の研究およびその成果を学校外での発表につなげていることは、評価できる。教科との接続や、より多くの生徒に対しての教育環境につなげることを期待する。
- 本校生徒・職員が指導者となり行う体験授業（サイエンスジャンプ）の取組に工夫と改善が図られ、地域の小・中学生の科学技術への興味を深める役割を果

たすとともに、生徒の変容にも効果が出ていることは評価でき、定着・発展に向けた取組の深化を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「研究計画・分析ノート」、「10 スキルループリック」や「OPP シート」は、学校 HP 等に掲載されているが、他の学校においても活用されるような形で HP に公開することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関として、本校に対し適切に支援等されている。

北杜市立甲陵高等学校（管理機関：北杜市教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 授業改善に係る取組で、OPPA（One Page Portfolio Assessment）の活用、クラス編成方法等特徴のある研究開発が行われていることは、評価できる。
- 甲陵 My ルーブリックの作成と活用を進めていることは、評価できる。今後、より生徒に役立つような形で活用されることを期待する。
- 教科内容に関して、SSH の特徴が出せるよう「授業改革会議」を通じた“クロスカリキュラム”、“教科横断”等の観点からの教材やカリキュラムの研究開発を期待する。
- Ⅲ期のポイントである「問づくり」の授業や教科間連携、五感を用いる各種研修活動等が小規模であることから、全校体制で実施することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 外部人材支援の「北杜市ちえのわプログラム」が有効に活用され、課題研究の高度化につながることを期待する。
- OPPIA による生徒変容の実績が課題研究以外の通常の教科・科目にも展開され、授業改善に活かされることを期待する。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善としての「問いづくり」について、研究開発課題との関連や実際の取組状況について不明確であるため、改善が必要である。
- 教育課程の特例として家庭基礎を課題研究に組み込んでいるが、その効果を明示するよう改善することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「キープ協会」や「地域企業」と連携した活動や、地域の小・中学校への連携

指導は、評価できる。

- SSH指定校として、国際共同研究が実施されることを期待する。
- 「北杜市ちえのわプラン」の生徒の活用度が低い原因を把握して、課題研究のテーマ設定段階から「北杜市ちえのわプラン」を活用できるようにすることが必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 開発された教材等が丁寧に説明付きで紹介され、活用が積極的に意図されていることは、評価できる。
- SSH 事業の取組が、大学進学等に有効でないと考えている保護者への説明と改善が必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関として地域への広報は行われているが、Ⅲ期目の指定校の管理機関として、域内や域外の高等学校との連携への一層の支援等を期待する。

愛知県立明和高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）
【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 研究開発部が複数教科の教員により構成されており、教科を超えて学校全体で研究の進捗や情報共有ができていた点は評価できるが、社会科等の教員が含まれておらず、今後、関わっていない他教科も含め、全校職員、全教科が関わる形で進めることを期待する。
- 「都市型SSH」、「学際共創」、「教育DX」を重層的に展開するために、学校の全校体制や教師の指導力向上がどう関わるか実証的に分析することを期待する。
- 様々な活動が成果として取り上げられているが、それぞれの活動が生徒の資質・能力の変容にどう作用しているのか、評価することを期待する。
- Meiwa Resources はよい仕組みであるので、仕組みを十分に発揮できるよう改善を期待する。
- 研究内容を持続可能にするために、研究内容の継承システム作りについて、検討することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 重層化による「都市型SSH」、「学際共創」、「教育DX」をキーワードとする課題研究は、学校側が示している又は指導しているテーマであり、生徒が自発的に3つのキーワードについて課題を見出し、追究する取組を期待する。
- 文理融合的な課題に取り組むために、「自然科学分野」、「総合・学際分野」の2分野に再編することで、地域資源のテーマ増加や探究の質の向上、データサイエンスの活用が進み、取組が改善することの実証を期待する。
- 変容ルーブリックについて、具体的にどのような資質・能力を育成し、具体的な能力を身に付けさせるのかを測ることが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 4月に実施する普通科・音楽科の1年生を対象とした探究活動導入プログラム（MC ガイダンス）における連携は興味深い取組であり、課題研究へのより効果的な接続を期待する。
- 「グローバルサイエンス交流会」、「海外交流校とのオンラインでの合同研究発表会」及び「SSH 海外研修」が実施されているが、今後はこれらの取組を高校生同士の共同研究に発展させることを期待する。また、研修等に参加できる生徒が限定されているため、それらの成果を全校生徒の学びにつながるような機会や、オンラインを活用して、全校生徒が関われるように改善することが必要である。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 先輩からの「アドバイス集」のポイントを整理し、その成果を公開することを期待する。
- 「デジタル探究ノート」、ICT を活用した卒業生追跡調査の手法の開発、教員向けの指導手引書である「MC トリセツ」、「実験ワークシート」等について、成果が公開されることが必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教育委員会による県内の SSH 指定校との連携や成果普及発信について、一定の成果は見られ、継続的に実施されていることは、評価できる。今後、SSH 指定校以外へのさらなる普及を行うことを期待する。
- 県の HP について、ただ成果物を掲載するのではなく、活用されるような形で情報を整理し、発信することを期待する。

三重県立伊勢高等学校（管理機関：三重県教育委員会）
【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 研究の推進にあたり、学校内にSSH企画委員会を設置し、教員と生徒が連携し定期的に進捗状況を確認しながら進めていることは、評価できる。
- 運営指導委員会に生徒代表が出席し、発表しているが、委員からの直接的な助言により生徒の探究がどのように進展したのかについて分析することを期待する。
- 地域資源の活用したプログラムであれば、その成果は、生徒の地域課題への着眼点等に表れるので、目的に応じて手立てと結果が連動することを期待する。
- 教科の枠組みを超えた指導の強化や文理を融合させたクロスカリキュラムを充実していくために、他校を参考にすることも必要だが、独自の全校的な組織的取組の開発が必要である。
- 伊勢高校版「課題探究能力育成プログラム」として、どのような資質・能力を育成していくのか、目指すべきゴールをしっかりと設定して、プログラムを実施することが必要である。
- 成果の測定とその指標については、まだ不十分な点が見られるため、今後の改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地域のPBL（Project-Based Learning）指導案については、伊勢志摩地域の他の学校においても使用できると考えられるため、教材等の交流を通して地域の探究活動を底上げする仕組みの構築を期待する。
- 「SSアドバンス探究」について、様々な検討が行われ指導が改善されてきているが、「SS探究」において育成すべき資質・能力を明確化し、指導内容をより一層充実することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 台湾を中心に学校全体で交流を図っており、訪問交流だけでなく、オンラインを活用して進めていることは、評価できる。台湾との交流を進め、国際共同研究の実施と実施マニュアルの開発等を期待する。また、台湾以外の欧米の高等学校との交流を図る等、アジアに限らない国際展開を期待する。
- 卒業生の女性研究者・大学院生と女子生徒が意見を交わす機会の創出や、他校女子生徒との交流等、女性の科学技術系人材育成につながる取組を推進するプログラムの一層の開発と成果の分析が期待される。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果の発表に外部関係者が多く参加し、多種多様な意見やコメントを取り入れていることは、成果の発信、内容の向上両者に有益であり、評価できる。
- 地域に根ざした活動が行われており、小・中学生に対する科学に対する意識向上にも貢献できていることは評価でき、自由研究の参考にしてほしい実験動画を更に開発し、公開することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 県内の SSH 指定校を連携させ、三重県としてのモデルを構築するための支援について一定の成果は見られるが、独自性のある支援とはなっていない。伊勢高校のモデルを SSH 指定校以外にも広める取組を更に充実させ、県内のリーダー校となるよう、さらなる支援が必要である。
- 県の HP で SSH 指定校を検索することができるが、域内だけでなく域外でも活用しやすい形で、各指定校の成果を公開することを期待する。

京都府立嵯峨野高等学校（管理機関：京都府教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 状況に応じて、学校内の研究推進組織を改編していくことは、評価できる。
- 「Sagano 学びのデザインシート」の実施方法等の内容が、各教科によって異なることは、生徒の受け止めの観点から課題であり、教科間の連携と理解を深める等の改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究について学校全体で取り組んでいることは、評価できる。
- 外部人材の活用について、多くの卒業生の協力を得ていることは、評価できる。
- 「理数理科」の指導について、担当する理科教員の専門性を生かしながら、教科の連携だけでなく、融合的な授業展開をしていくことによって、教員の指導力向上を期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学や研究機関、企業、地域や他のSSH指定校等との連携について、計画通り実施され、期待した成果が出ている。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果の普及等について、計画通り実施され、期待した成果が出ている。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員のスペシャリスト枠を設定する等、課題研究指導の円滑な推進のための施策を進めていることは、評価できる。スペシャリストの教員には、生徒の学習活動等を下支えすることを期待する。

大阪府立岸和田高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）

【Ⅲ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 全校的に事業を推進するための体制が整っており、常に改善を図りながら進めていることは、評価できる。
- NP0 等と連携することで、研究開発計画を進めていることは、評価できる。
- プロジェクト Nova の取組については評価できるが、成果の分析において、母数が大きく異なる「プロジェクト Nova」と他の生徒の数値を単純に比較することについて、検証方法として適切か検証することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 縦割り型課題研究について、木曜日午後に全教員で取組を進めていることは、評価できる。
- 校長のリーダーシップの下、指導体制が構築できていることは、評価できる。
- デジタル機器等を有効的に活用しながら、生徒の主体的な取組をうまく取り込んだカリキュラムを実施していることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 近隣の小学生を発表会に参加させる取組は評価でき、更に発展させることを期待する。
- 科学系クラブについては人数も増加し盛んに行われており、さらなる成果を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校を中心として、近隣校にも取組が波及していることは、評価できる。
- 学年をまたいで縦の交流を重視していることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関として、本校に対し適切に支援等されている。

大阪府立千里高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 校長がリーダーシップを取り、全校体制でSSHに取り組んでいることは、評価できる。
- 研究ポートフォリオや探究ルーブリックの開発と改善を進めていることは評価できるが、探究ルーブリックの評価が生徒と教員で大きな差があることについて、生徒へのフィードバックを含めて、より効果的な評価方法へ改善していくことが必要である。
- 開発教材である考察ワークについて、用いている研究用紙等の題材が本当に生徒にとって効果のあるものになっているか、より客観的に評価していく必要がある。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- TAのマニュアル作成など、外部支援を工夫していることは、評価できる。
- 生徒の変容を適切に見取り、教材開発につなげていることは、評価できる。
- 課題研究と通常の授業との連携についての更なる検討に対して、今後の成果を期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 毎年２月に実施されている「分離融合課題研究発表会」での国際文化科と総合科学科との２つの学科の交流による学習は、評価できる。
- 理科学研究部の部員を中心に、科学関係のコンテストで多数の受賞があり、今後の継続的な検討と発展を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果について、情報発信や成果発表が行われているが、生徒がより具体的に成果を一般に広く公開、発表できる機会を設けることを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大阪府として、府内の高等学校をとりまとめ、交流などを行っていることは、評価できる。
- 府内全体の指導力向上を目指して、SSH 指定校の教員による指導力に関わる研修などを更に拡充することを期待する。

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 大学院に進学した卒業生と連携し、SSHにおけるモチベーション・学習効果の調査を行う等、Ⅲ期ならではの取組が行われていることは、評価できる。
- 成果と課題の分析について、「関係の質を高める」ための取組が具体的にどのような活動を指すのか、その背景も含め明確にすることが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 「実践科学実験」は、探究活動にも活かせる基礎知識・計測原理・定量化等の要素が組み込まれた教材であり、評価できる。
- 第２学年では、すべての教科で探究活動を実施しているが、理数系と文系・社会科学系で研究方法に違いがあるため、両方で同じような深みのある探究ができるのか明らかにすることを期待する。
- 「心理的安全性」の観点からグループ編成に特色があり、成果も出ているが、必ずしも同じ課題に興味をもつ生徒の集まりではない点もあることから、引き続き取組を改善することを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 「科学体感校外学習」は海外研修も含め多数準備され、多様な形態で事前学習や事後学習が行われ、校外学習の効果が高いと評価できる。今後、学校内や地域にも学習成果を伝える仕組みの強化を期待する。
- 個人として参加する科学オリンピック等の参加者も多く、個人の探究的活動をサポートする施策の強化を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 継続して質の高い SSH 事業が行えるような体制が構築されており、資料のアーカイブ等の共有されていること、課題研究発表会への他校教員の参加が多く、地域の中核となっていることは、評価できる。
- 毎年改訂が進められている「探究ハンドブック」等の HP への掲載は評価できるが、SSH 指定校として他の開発教材等についても積極的な公開を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 大阪府独自の生徒研究発表会を開催しており、単発イベントではなく 10 月の発表会後に指導や助言を受けて生徒が研究を深め、12 月に改めて発表の機会を設ける等、実施形態の工夫は、評価できる。
- 中学生の研究発表の機会も作り、中学生段階から探究活動を大阪府として推進するとともに、学識経験者と教員がチームで審査する形態をとることにより、教員の指導力向上にも取り組んでいることは、評価できる。

兵庫県立加古川東高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）

【Ⅳ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- SSH 事業を全校体制で推進するにあたり、教員間のオープンな委員会を設置する等の工夫が見られることは、評価できる。
- 事業の成果の分析も多面的かつ客観的に行い、改善に活かされていることは、評価できる。
- 卒業生に TA 人材バンク登録を促すことによって、卒業生の活躍状況を把握するだけでなく、探究活動 TA、STEAM 講座の講師として参加することにより在校生へのロールモデルとしての活用も期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 「イノベーション基礎」や「STEAM 特講」等特色ある科目を創設し、生徒の好奇心と能力を伸ばす多様な機会を確保していることは、評価できる。
- 通常の学習で探究学習に必要なスキルを身に付ける工夫をする等、課題研究以外に探究学習を展開しようとしていることは、評価できる。
- 探究活動で育成を目指す生徒の資質・能力を明確に示して、定期的な振り返り調査、アンケート調査、他己評価表開発等で評価・分析しているが、さらに、生徒による評価だけでなく、教員による客観的評価も実施することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「地域や世界等との協働」を研究課題として、愛媛県立松山南高校との共同研究や台中女子高級中学校との共同研究を実施して、研究を協働する取組を実施していることは、評価できる。
- 外部連携により「科学を考える」講義、「イノベーション」講義、サイエンス

研修、STEAM 特別講座を実施していることは、評価できる。

- TA の充実したサポートは評価でき、今後更に組織化して生徒の課題研究を発展させることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 校内分掌「教育企画部」が PDCA サイクルを回して改善することや、普通科における探究のための教員研修を実施することにより、研究成果の共有・継承を図っていることは、評価できる。
- 他校からの学校訪問が多く、他校への SSH 事業成果の普及を積極的に実施しており、他校での活用事例をアンケート調査で把握していることから、今後それらを生かした教材の改善を期待する。
- 普通科における探究の教材は他校での探究活動指導の参考として活用される教材と思われることから、訪問校への配布に限らず、幅広く活用されるようになることを期待する。
- IV期としての他への発信を更に充実させるため、具体案を検討し、県内外の他校の活用を目指す必要がある。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 管理機関が県内の SSH 指定校及び他の高等学校も含めた交流と学びの場を構築していることは、評価できる。
- 指導体制を充実させるための人的支援や、五国 SSH 連携プログラムにおける研修会の実施、SSH 指定校以外への成果普及のための情報交換会の実施、高大連携プログラムの実施、成果発表会の開催等、県内の SSH 指定校への支援に取り組んでいることは、評価できる。

兵庫県立三田祥雲館高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）

【Ⅲ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 7 項目の仮説と対応する研究開発内容や検証評価法の開発を全校体制で進められていることは評価できるが、個々の仮説の達成状況についてばらつきが見られることから、改善することが必要である。
- 研究開発課題の柱である「祥雲 STREAM プログラム」の参加者が少ない点を改善することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 第1学年の「プログラム探究 A」、「自然科学への誘い」、「グローバル情報探索」等のカリキュラム編成は特徴があり、生徒の伸長にも有効であり、評価できる。
- 英語・国語・理科の3教科の教員のチームティーチングによる教科横断の「Human&Science」が開発されているが、その成果を校内での教科連携や一般教科の探究型授業の開発につなげることを期待する。
- 「プログレス ABC」の成果を高め、参加生徒の増化を図るために、教育課程内での実施や、AB から C への継続、県のコーディネーターの活用等による企業の開拓等の検討を期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地域との連携活動は活発で、三田市民や近隣の小学校・中学校・高等学校の生徒を含め児童生徒の伸長にも役立っており、地域のハブスクールとして機能していることは、評価できる。
- 海外交流に関して、オンライン交流の強化が検討されており、日常的な交流や共同研究等、さらなる発展を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究の校内データベースの構築とその活用策、「エウレカ通信」の発行による活動状況の広報が有効に機能していることは、評価できる。
- 多様な視点で事業が展開されており、取組の工夫等が域内だけでなく、域外にも分かりやすく発信することを期待する。
- 「書き込み探究ノート」は学校 HP に掲載したり、学校視察に来た教員に配布されたりしており、成果普及を図っているが、今後は、学校関係者以外からもフィードバックを受けて、継続的に改良版を公開することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果の水平展開に向けた「咲いテク」事業の強化や「サイエンスフェア in 兵庫」の開催等は、SSH 事業の有効な支援策となっており、評価できる。
- 本校の成果物を教育委員会の HP に掲載することについて、本校の成果を域内だけでなく域外からも分かりやすく、活用しやすい形で掲載されることを期待する。

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 令和６年度より理数科をSTEAM探究科に改科したことにより、SSH事業に対する教職員の評価が上がっていることは、評価できる。
- SSHで育てたい資質・能力を明確にし、それを基にルーブリックを作成することが必要であり、現段階では、様々なルーブリックが存在しているため、その関連性を明確にすることが必要である。
- 成果の分析を生徒の自己評価だけで行うことは客観性に乏しいため、改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 探究活動の導入のために入学前に動画を配信することは効果的であり、評価できる。
- 様々な取組が行われているが、一貫した評価方法が必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 周辺地域から海外まで巻き込んで行う「豊高アカデミア」を始めたことは、評価できる。
- 国際性を高める取組について、タイや韓国、台湾等と交流が行われており、今後、共同研究に発展することを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「豊高アカデミア」は外部に開かれた発表会であり、成果の普及に資するもの

であることから、評価できる。

- HP に掲載されている資料が少ないため、探究ノートやルーズブリックの公表が必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ALT 3 名を配置して、数学や英語のサポートをしていることは、評価できる。
- 管理機関の人材支援や指導については、兵庫「咲いテク」事業を始め様々な形で行われており、評価できる。

兵庫県立長田高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）

【I期3年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 研究開発の目標に掲げた「みつける」力、「すすめる」力、「ひろげる」力を育てるため、「探究入門」、「理数探究基礎」、「探究A」等の科目を設定し、適切に実施していることは、評価できる。
- 運営指導委員会からの助言に対して適切に対応されていることは、評価できる。
- 独自にすすめている「非認知能力」に関する調査はオリジナリティがあり、成果を期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- カリキュラムマネジメントが機能して、3年間の探究のつながりを意識した教育課程が編成できていることは、評価できる。
- 探究の指導において、理数系の教科や英語科以外にも社会科、国語、保健体育等の教科の教員が携わり、外部指導者などを効果的に導入しながら、分野の偏りがない探究活動の指導体制が整備されていることは、評価できる。
- 「大人の探究活動」等を通じて、教員の指導能力強化に務めていることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 立地を活かして近隣の大学や研究所、企業と連携し、それぞれの強みを生かす形で生徒の育成プログラムを組んでいることは、評価できる。
- 単なる語学力だけでなく、海外機関との連携、国際的な研究についての講義、プレゼンスキル等、様々な観点からのプログラムを意欲的に推進していることは、評価できる。

- 台湾高級中学校との交流を共同研究に発展させること、交流を人文・数理探究類型に限らず普通コースの希望者へも広げることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 取組を HP で広く公開することで、他校の課題研究で参考にされる等、効果的に活用されていることは評価でき、兵庫県内の高等学校への普及効果のみならず、小・中学校でのキャリア教育でも活用されることを期待する。
- 一般クラスの生徒が、SSH 事業により、学校での変化や教育的な支援を実感できるようになることを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 人的配置と、SSH 指定校と連携した兵庫「咲いテク」事業を通じた生徒の学習・交流、教員研修といった、兵庫県内で探究活動を推進していく取組が行われていることは、評価できる。
- 兵庫県の「県立高校魅力アップ推進事業」で、予算措置を行い、「学びの設計書」発表の支援を実施していることは、評価できる。

神戸市立六甲アイランド高等学校（管理機関：神戸市教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「一段高い研究開発」の視点から＋αの新たな事業（Rokuai English Club、探究力UP講座等＜教員・生徒希望参加＞）の開発が計画以上に行われていることは評価でき、希望参加者の変容も含めて開発の成果について明らかにすることを期待する。
- 成果と課題の分析において、特別講義等の評価や、生徒の自己学習力等の評価、教員の意識の変容等を実施しているが、これらがどのように関連しているか分析することを期待する。
- 「授業改善評価アンケート」の質問が、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の視点になっていない内容があるため、質問内容の妥当性を改めて検討することが必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 授業公開週間の設定が授業改善に寄与していることは、評価できる。
- Ⅲ期目であることから、「理数実践」や「理数探究基礎」、「理数探究」等の科目を、総合科学系や情報科学系の必修科目にすることを期待する。
- タブレットを利用することで、「ICT教育の充実」による授業改善の開発研究は、特徴と先進性があり今後の成果を期待する。
- 課題研究の質の向上に向けて、「神戸学」等を活用しながら具体的な取組を進めることが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「特別講義」における成果や同講義に他校の生徒の参加を認める等の活動は、評価できる。

- シンガポールの高等学校と連携した国際共同研究のプロジェクトは評価できるが、参加者が少ないため改善が必要である。また、一般の高等学校では、国際共同研究を行うハードルが高いため、今後マニュアルを作成することを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「課題研究の手引き」や「極めるスライド発表」等の開発教材が公開され、他の神戸市立の高等学校においても活用されていることは、評価できる。
- 特色ある教材開発として課題研究の手引きを各系・コースごとに開発し、公開しているので、今後は、文理融合の視点からも開発教材が他の学校で活用されるよう一層の工夫を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員の加配措置や、市立高等学校の特性を活かした地域連携活動の支援策は、評価できる。
- 本校における成果を小・中学生への科学的探究活動への支援に生かしていることは、評価できる。

鳥取県立米子東高等学校（管理機関：鳥取県教育委員会）

【Ⅱ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 校内関係者による組織として、教育企画部、SSH 推進委員会等がその機能を果たし、研究開発が進捗していることは、評価できる。
- 成果の分析方法については、今後の取組の状況に応じて改善が必要である。
- 生徒の資質・能力の分析がジェネリックスキルのみとなっており、改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「高大接続事業」として、連携する大学から継続的な指導を受けており、生徒の探究活動への効果を期待する。
- 生徒の科学探究力や挑戦力の育成のためには、教員が「指導する」という意識を持つだけでなく、自らの科学探究力や挑戦力を高めることを期待する。
- 教員自身の専門性等のスキルアップのため、教員研修の充実を期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学教員による講義や実験への参加は多数企画・実施されているが、それらの生徒への影響を評価・分析し、次のステップにつなげていくことを期待する。
- 高大接続を意図した地元や地域の大学との連携が見られるが、これらの成果を明確にすることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 小・中学校等の義務教育段階への普及の取組の姿勢は見られるので、鳥取県の

他の高等学校、特に理数科への普及や波及効果を期待する。

- Web サイトの充実は評価でき、今後の継続を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 鳥取県の他の SSH 指定校や理数科などの学校に、成果を広げたり興味を高めたりするような取組を期待する。

岡山県立玉島高等学校（管理機関：岡山県教育委員会）

【Ⅳ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 推進室について校長のリーダーシップの下、全教員が共通の意識を持って取り組んでいることは、評価できる。
- 運営指導委員が SSH の各事業のサポートを行うように担当制にしていることは、運営指導委員が積極的に関与することが可能となり、評価できる。
- 学校自己評価アンケート調査において、教員と生徒は意欲的に取り組んでいると判断できることは評価できるが、保護者の肯定的な数値が低く、低下している項目もあるため、保護者へ活動状況の周知を高め、本取組についての理解を促進することが必要である。
- 成果の分析が外部の評価に耐えられるものになっているかどうか検討が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員の指導力向上のために、地元の大学や企業の研究者から指導や助言を受けるネットワークを構築していること、校外連携において、オンラインチャットツールを用いて、地元退学や企業から指導・助言を得る「玉島サイエンスネットワーク」を通して指導助言を得ていることは、評価できる。
- 3 年「発展課題研究」を選択する生徒が増えつつあることは評価できるが、まだ 20 名程度にとどまっているため、生徒が主体的に選択するような更なる工夫の検討が必要である。
- 普通科の課題研究の時間が第 2・3 学年は 1 時間ずつであり、十分な時間が確保できているか検証することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地域の小・中学校に科学イベント等を設定する等、地域の理数教育の推進に貢献していることは、評価できる。
- コンテスト等への積極的な姿勢は伺えるが、より成果を挙げることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「発表ポスターの作り方発展編」や「ポスター発 HP に表の仕方発展編」等を HP に掲載し、岡山県立笠岡高等学校第 1 学年全員対象に活用されていることは、評価できる。
- 日本科学教育学会、日本化学会や全国理科教育大会等で実践例を発表していることは、評価できる。
- 生徒による発信は、教員の発信と比べて、中学生や他の SSH 指定校の生徒にとって、親しみやすく良い参考事例になると考えられるため、今後も継続して実施することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 岡山県の科学教育の中で、当校はどのような位置付けかが不明確であり、県として本校に何を期待しているのか等について明確にすることが必要である。

岡山県津山高等学校（管理機関：岡山県教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- VGR（Vision, Grit, Research Mind）伸長に関するアンケート結果の分析で、ミニ課題研究や基礎統計学講座の取組の効果等を明らかにしており、それを指導方法の改善に生かしていることは、評価できる。
- 理数科を中心に卒業生の追跡調査が進んでおり、過去の教育の成果を評価できる状況であることは、評価できる。
- トップサイエンティストの育成を課題、目的、目標に掲げているが、事業内容や組織体制がふさわしいものとなっているのか検討・改善が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 各教科で探究的活動についての教材を開発し、VGRを意識した教育を行う等、各教科と連携した取組を実施していることは、評価できる。
- 学際型課題研究に関する各種教材を整備していることは、評価できる。
- 生徒が主体的に学ぶとはどういうことか、どうしたらそうなるか、生徒が探究的に学ぶとはどういうことか、どうしたらそうなるか等について、教員が十分に検討・理解することが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「津山サイエンスネットワーク」を活用した大学や研究機関との連携が行われていることは、評価できる。
- 鳥取県のSSH指定校とのネットワークの構築を目指していることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 他校と連携をしながら、成果普及の取組を行っていることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 産業界との連携や、大学との連携が容易になるよう協定を結んでおり、課題研究を含む教育活動に資する取組を実施していることは、評価できる。
- 鳥取県の SSH 指定校とサイエンスネットワークを構築する際に、教育委員会同士が連携する体制を構築・強化することを期待する。

広島県立西条農業高等学校（管理機関：広島県教育委員会）
【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 生徒の意識の変容について、エビデンスに基づき事業を推進していることは、評価できる。
- 「アグリサイエンス」や「SS 課題研究Ⅰ」、「SS 課題研究Ⅱ」、「共通ルーブリック」における評価を中心に、多様な学科でそれぞれ工夫された研究開発が全校体制で行われていることは、評価できる。
- 教員の意識調査で、「充実感がある」や「同僚に頼みやすい雰囲気がある」等の項目が高い値を示していることは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学校の特性を生かした課題研究や探究的な学習を中心にしたカリキュラムマネジメントは、評価できる。
- 学科・教科が一体となった教育活動の充実によって、探究活動の深化を促す取組が継続されており、シラバス・オリジナルテキストの開発が進められていることは、評価できる。
- 「マイカリキュラム」、「ハイスクールラボ」の取組は特色があり、今後の成果を期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- アメリカ、イタリア、フィリピンと多様な国とオンラインでつないで共同研究を行う機会を設けていることは、参加生徒のみならず、生徒全体に対しても波及効果があることから、評価できる。
- 特色ある研究テーマに取り組む生徒に対して、高大連携を通しての支援体制が整備されているが、今後は、高大接続協議会を通して、高大接続の検討を深化

させることを期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 農業と理科の教科横断型の授業を試みており、テキストや指導用資料が HP に公開されていることは、他校からも参考になる取組であることから、評価できる。
- 農業高等学校で SSH を行っている事例は全国的にも珍しいため、中学生や他の農業高等学校にも積極的にノウハウを発信することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 異文化間協働活動進捗事業を通して、本校の取組への支援が有効に機能していることは、評価できる。
- SSH 指定校と大学、産業界との連携強化に向けた研修会の充実等の支援が行われていることは、評価できる。

香川県立観音寺第一高等学校（管理機関：香川県教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 数学の進んだ内容の授業の実施、質の高い海外（米国）並びに国内（東京方面）研修は、評価できる。
- 探究マップの作成など課題研究の指導についての工夫は、評価できる。
- 運営指導委員の指摘を適切に理解して改善に取り組んでいるか検討する必要がある。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 全校的に、全教科の教員が探究活動に関わっていることは、評価できる。
- 課題研究などの探究活動につながる項目を意識した公開授業研究会を実施していることは、評価できる。
- 全教科・科目においてデータサイエンスの学びの成果が活かされているのか、観点別評価との整合性を検討する必要がある。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域の小学生対象の科学部の活動や企業訪問、科学体験などの研修を多数行っていることは、評価できる。
- 他校との交流を積極的に行うなど探究活動における工夫が見られることは、評価できる。
- オンラインFESTATの開催や香川県高等学校教育研究部会探究部会の運営など、中心的存在として外部連携等を継続的に図っていることは、評価できる。
- 企業等との連携は新たな視点からの研究開発に期待できるが、具体的な成果を示す必要がある。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 多くの学校訪問、国立教育政策研究所プロジェクトへの参加、教員による日本科学教育学会での発表・J-stageでの公開を含め、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- 教員内で科学探究基礎βの指導案や授業動画の共有が行われていることは、評価できる。
- 生徒の取組だけでなく、教員や学校の取組についても普及を期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 香川県理数系探究指導者研修会の実施、総務省主催の統計指導講習会への教員の派遣、指導助言・支援が充実していることは、評価できる。
- 「香川型教育メソッド」の開発・県全体への普及、授業改善の取組や成果の県内外への発信・普及などに積極的に取り組んでおり、評価できる。
- 取組方針が明確に定められており、成果を挙げていることは、評価できる。

福岡県立鞍手高等学校（管理機関：福岡県教育委員会）
【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 研究開発の運営において、求める資質・能力とその達成状況をいくつかのアンケート等で明らかにしていることは、評価できる。
- 指導と評価の一体化について、生徒のルーブリックによる自己評価と教員の観点別評価との間に、正の相関を示す項目が増えたということは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 普通科における探究活動において、文系・理系クラス生徒が混在する班が多いことから、今後の成果を期待する。
- 課題研究に必要な資質能力を身に付けさせるために、学校設定科目として「数理科学Ⅰ、Ⅱ」と「数理活用」を設定しており、その内容には特色があるため、今後の成果を期待する。
- 「テーマの種」や「研究企画書作成」等のプロセスは、探究内容や方法・手段等の検討を探めるのに有効と考えられることから、今後の成果を期待する。
- これまでの取組により、課題設定力やデータ分析力、コミュニケーション力が向上していることは評価できるが、向上した要因について、分析して記録として残すことが必要である。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「理数科１年サマーセミナー」、「理数科サイエンスリサーチ」では、特色ある事前・事後学習が行われており、成果が生徒に自覚できるようになっていることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 放送部が Web 掲載用の研究発表会の動画を作成したり、地元のラジオで紹介する等の取組が行われ、部活動をうまく取り込んだ広報活動になっていることは、評価できる。
- 「STEAM 探究テキスト」、「探究ノート」、「学びの開発ループリック」等、特色ある成果が HP 上に公開され、水平展開が可能になっていることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関として、本校に対し適切に支援等されている。

佐賀県立致遠館高等学校・佐賀県立致遠館中学校
(管理機関：佐賀県教育委員会)
【Ⅳ期 3 年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 生徒の変容が意識調査にとどまっており、資質・能力の変容について評価することが期待される。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 2 年生の課題研究では教員一人当たりの生徒数が 6 ～ 7 名で 3 時間連続の授業が実施されていること、SSH 科目では大学・企業・NPO からの年間 100 名余りの指導者を招聘するなど工夫していることは、評価できる。
- 理数科以外の教員の関わりが感じられないため、文系教員、普通教科科目も含めて、主体的・対話的な学習が行われることを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 佐賀大学や沖縄科学技術大学院大学との連携で成果を上げており、評価できるが、佐賀大学におけるデータサイエンスの単位の先取りは県内のすべての高等学校を対象としており、佐賀大学との連携の強みは何か検討する必要がある。
- Ⅳ期ということを踏まえると、外部講師の招聘をもって高大連携とするのは不十分であり、改善する必要がある。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 近隣の小学校・中学校との連携と県内外の高等学校との連携を推進し、本事業

の成果の普及に努める必要がある。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校のみならず、県内の学校同士で、探究学習について連携できる枠組みを作ることを期待する。

熊本県立天草高等学校（管理機関：熊本県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 理科の教員にのみに過度な負担にならないよう SSH 推進体制が整っており、計画立案から、授業改善、外部連携などが進められており、バランスを考えながら運営されていることは、評価できる。
- 成果の分析や課題の分析が的確に行われており、卒業生への追跡調査を積極的に行っていることは、評価できる。
- 目的・目標に設定した「問いをたてる力」と「創造する力」を中心に、計画以上に事業が進捗し、生徒が積極的になっていることは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 各科目で課題研究とつながる授業を行い、全校体制で取り組んでいることは、評価できる。
- 全教科においてコンピテンシーベースの連携を行うことにより、探究活動における効果的な連携を可能にしたことは、評価できる。
- 異学年の生徒で小グループを作り、課題研究に取り組むことにより、効果的な教育が行われていることは、評価できる。
- 課題研究と通常の授業で、生徒の主体的で探究的な学びが追求され、生徒にも浸透し、教育成果が上がっていることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 教育委員会の力も活用しながら、外部連携を積極的に行っていることは、評価できる。
- 1年生の1学期に「天草学連続講義」を開講し、地域の身近な課題を多面的に知る機会を設ける等、課題研究に取り組むための工夫が行われていることは、

評価できる。

- 天草市と課題研究で連携していることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- これまで行われた課題研究をデータベース化した教材を開発し、研究のテーマ設定に活用していること、上級生による下級生への研究内容の紹介の機会を設けることで、探究活動を生徒が自立的に行っていることは、評価できる。
- ホームページがわかりやすく、頻繁に更新されており、外部への成果の普及に積極的に取り組んでいることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 県内の熊本スーパーハイスクール合同研究発表会を実施して、情報交換の機会を創出することは、それぞれの学校の SSH 事業の運営に役立つものであり、評価できる。
- 熊本県全体として KSC（熊本サイエンスコンソーシアム）の活動を活性化させており、探究的の学びを推進していることは、評価できる。

熊本県立熊本北高等学校（管理機関：熊本県教育委員会）

【Ⅲ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- SSH 推進委員会で事業の検討・評価を行いながら、SSH 部を分掌に位置付け、研究開発 R、L、C の３つを推進しており、課題研究推進会議（PLC）が、課題研究の成果の分析や評価を専門に検討し、指導法の改善の研修に結びつく部門となっていることは、評価できる。
- ルーブリックやアンケートを組み合わせ、定量的に成果を分析していることは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究の過程に合わせた「KUMAKITA TS 法」、「KUMAKITA KS 法」、「KUMAKITA OP 法」の開発や「KUMAKITA 資質・能力共創モデル」による評価等によって成果を出していることは、評価できる。
- 普通科、理数科に加えて英語科を設置していることを活かして SSH 活動が行われており、データサイエンスとグローバルスタンダードサイエンスの学校設定科目を設置していることは、評価できる。また、指導体制も理数科、英語科の分野の教員を適切に体制内に組み合わせ、外部連携も活用していることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 海外校との研究・交流活動のみならず、合同で職員研修や情報交換会が行われており、教員同士が教育実践交流を行うことは、教員の資質・能力向上に大きく寄与することから、評価できる。
- 自校主催の国際科学フォーラムの継続的な開催が、着実に生徒の国際性の向上

につながっていることは、評価できる。

- 部活動の外部コンテストの実績を上げつつあり、情報処理等の地元の産業に結びつくことも意識して、幅広い分野での活躍が目立っていることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 開発教材を積極的に HP に掲載し、使用する学校への追跡調査を行っていることは、他校の参考になる取組であり、評価できる。
- 生徒の成果物をデータベース化して、生徒や教員で共有できていることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員加配による人的支援の実施や KSC（熊本サイエンスコンソーシアム）への予算支援の実施等は、評価できる。
- SSH 等の指定校だけでなく、県内すべての高等学校が何かの特色を看板として掲げ、各校の魅力化・特色化を可視化して共有する仕組みができており、SSH 指定校を中核とした理数探究活動についても普及効果が見込まれることは、評価できる。

大分県立佐伯鶴城高等学校（管理機関：大分県教育委員会）

【Ⅱ期３年目】のSSH中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 推進部が、状況把握や成果分析などを行い、課題解決に取り組んでいることは評価できる。成果の分析については RIAS (Region, Inquiry, Analysis, Science) のねらいに沿っているかどうかの検証が必要である。
- SSH 専任・副専任を学級担任にはせず、他の教員がいずれかの事業に分掌として関わる体制は、教員一人一人が SSH 事業を自分事として捉えることになり、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 全生徒に対して１年次から３年次まで段階的な教育プログラムを設定しており、多くの教員が課題研究に関わる体制が構築されていることは、評価できる。
- RIAS のそれぞれの育成する力が具体的に何を示し、そのためにどのような取組を行い成果を評価するのかを更に深める必要がある。
- 授業研究会を実施していることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地元企業との連携や、大学との連携が充実していることは、評価できる。
- 県内外の SSH 指定校との連携が行われており、視察や成果発表会が行われていることは、評価できる。
- 地域連携や小・中学生への普及活動は、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地元の幼稚園・小学校・中学校へ生徒が普及等の活動を行っていることは評価できるが、県内の理数科の高等学校への普及等を期待する。
- 成果の発信方法については、工夫が必要である。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 人的支援、人材育成共に充実した取組は、評価できる。
- 成果の普及・発信、域内での指導力向上や探究活動の啓発、探究型授業の促進に対する支援や評価方法の指導・助言などに係る具体的施策が展開されていることは、評価できる。
- グローバルリーダー育成塾を継続的な研修として設けていることは、評価できる。
- 課題研究の内容に関わる資料を HP に掲載していることは、評価できる。

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Ⅳ期の新しい取組である「気付きの階段」と「探究型テスト」による評価・分析がまだ十分な成果を得られていないとのことなので、今後の成果を期待する。
- 「気付きの階段」について、各 STEP の段階が生徒の実態に合っているのか、多角的な視点から検討を加えることが必要である。
- 「探究型テスト」について、その有効性についてより客観的な評価方法が必要である。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究の指導に関して、これまでの実績を継承するための体制を構築していることは、評価できる。
- 履修する学年を柔軟に運用すること等により、課題研究と通常の教科・科目との連携が潤滑に進むよう工夫していることは、評価できる。
- 週当たりの総時数を 30 とし、放課後に生徒が時間を主体的に活用できるようにしたことは評価でき、その成果を分析することを期待する。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- サイエンス部の活躍と経験が教育課程内の取組に好影響を与えていることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学年をまたいだ交流を重視していることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 指導主事 11 名を配置し、学校を指導・支援する体制を構築していることは、評価できる。

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理職や管理機関が学校全体をマネジメントし、教職員も全員が協力して計画を進めていることは、評価できる。
- ルーブリックを柔軟に修正していることは、評価できる。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 小・中・高の一体化した連携プログラムの開発は、それぞれの対象に重点化したプログラムとなっており、評価できる。
- 教員による追跡調査等が丁寧に行われており、教員の指導力向上や改善にも前向きに取り組んでおり、評価できる。
- 一般教科における教科横断的な授業改善に取り組んでいることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 各種大学との連携による共同研究、マレーシアとの共同研究等は、評価できる。
- 令和４～５年度の２年間で高等学校生徒の約３割が学会に参加・発表し、専門家から指導・助言を得たことは評価でき、日常の学習と研究活動につなげることを期待する。
- 英語力強化、国際会議への出場、海外高校生との共同研究などの取組が活発に行われており、生徒の資質・能力の向上に役立っていることは、評価できる。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学内における成果の共有が、校種を越えて行われており、理数系教育に関する生徒の興味・関心を高めるための一助になっていることは、評価できる。
- 千葉工業大学との共催で、小中高生対象の国際科学コンテスト「グローバルサイエンティストアワード夢の翼」を毎年1回開催し、SSH 事業価値を普及していることは、評価できる。
- 成果の普及に努め、全国の高等学校と理数教育の充実・発展に取り組んでいることは、評価できる。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 管理機関として、全体のマネジメントができていることは、評価できる。